

カンガルーシップ活動

就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 27 年 3 月 20 日
主管学校名	北海道教育大学附属札幌小・中学校ふじのめ学級
PTA 会長名	佐藤 真由美 (特別支援学級 PTA)

実施概要	主管校	北海道教育大学附属札幌小・中学校 ふじのめ学級
	交流校	
	実施活動名	PTA 施設見学
	実施日時	平成 26 年 7 月 11 日 (金) 8:30~16:30
	実施場所	北海道千歳高等支援学校 及び 北海道リハビリ
	実施目的	児童生徒の進路、就労先となり得る学校、施設の見学を通して、具体的なイメージをもつこととともに保護者と教職員が児童生徒に合った場所をともに見付けていくための情報収集、新たな進路、就労先の開拓していく機会とする。
	実施内容	高等支援学校、就労施設の見学、情報収集
	実施方法	希望する見学先の調査等の事前準備、大学バスにて見学施設を訪問、見学後に PTA だよりで情報発信
参加人数	27 名	

報告事項	内容	<p><日程></p> <p>8:20 集合</p> <p>8:30 学校出発 (大学バスを利用します)</p> <p>9:30 午前見学 『北海道千歳高等支援学校』</p> <p>11:30 昼食</p> <p>13:00 午後見学 『北海道リハビリ』</p> <p>16:10 帰校 (※時間が前後することがあります)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスでの移動時間を利用して、施設訪問時のマナーだけでなく、小中それぞれの保護者より進路についての悩みや今まで取り組んできたこと等について話す時間を設けた。 ・午前、午後の見学では、担当職員の方からの説明と施設見学をした。 ・昼食会場では、小中の保護者、教員が自由な席に座り、情報交流をする機会とした。
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・開校2年目である千歳高等支援学校では、生徒数が少ないという特徴を生かして、教科、作業、行事などの取組を工夫していることが分かった。また、地域の方、企業と協力して生徒の成長、自立を考えた環境づくりなど、学校の特徴を生かした活動を積極的に行っていることが分かった。 ・北海道リハビリは、大変大きな施設であり、入所している方の生活している部屋や食堂などをみる事ができた。また、入所しながらまたは通所して行っている印刷、クリーニング業務を行っている様子を見学することができた。 ・異学年の保護者の話を聞く機会が設定されたことで、進路先、就労先の情報交流だけでなく、子どもの成長を踏まえた進路を考える機会になった。 ・進学先、就労先を考えるに実際に授業しているところ、働いているところを見せていただくことで子どもの将来の姿を具体的に想像しながら見学することができた。また、保護者と教員と一緒に見学することで共通のイメージをもつことができた。
	所感	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者も教員も進路、就労先についてたくさんの情報を得ることは、子どもたちに合った進路、就労先を考えるための幅が広がることにつながる。 ・見学施設の情報だけでなく、そこで見る高校生、社会人の姿から子どもたちの将来の姿を描くだけでなく、将来につながるために今必要な力についても考えることができることが大切であった。 ・保護者、教員間でも話をする時間があつたことで、見学先だけでなく、子どもの成長を考えるよい時間となった。

添付書類

カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 参加感想

提出日	平成 27 年 3 月 20 日
学校名	北海道教育大学附属札幌小・中学校ふじのめ学級
氏名	

PTA 施設見学に参加し、千歳高等支援学校と社会福祉法人北海道リハビリーを見学しました。千歳高等支援学校は、開校2年目の学校です。生徒数が少ないという特徴を生かして、教科、作業、行事などを取り組んでいました。また、地域の方、企業と協力して生徒の成長、自立を考えた環境づくりを積極的に行っていると思いました。

北海道リハビリーでは、施設に入所している方のお部屋、食堂など生活の場を見学させて頂きました。その後、入所しながら、または通所して印刷、クリーニング業務を行っている様子を見学しました。働いている方の年齢は、10～70代と幅広くいました。みなさん全員が集中して一生懸命に働いていました。そして、明るく挨拶をしてくれて、私たちを心地よく迎えてくれ嬉しく思いました。人の役に立つ仕事をもつことは、その人の生きがいになる素晴らしいことだと思いました。

昼食、バス移動の時には、は学年、中学生のお母様方、先生から子どもの成長に役立つ情報収集もでき、私にとって学びの多い貴重な経験になりました。

最後に千歳高等支援学校の教員の方、北海道リハビリーの職員の方、お忙しい中、私たちのために時間をつくっていただきありがとうございました。そして、PTA 役員の皆様、PTA 施設見学の計画、実行、ありがとうございました。

7月11日（金）にPTA 施設見学が行われました。今年度は北海道千歳高等支援学校と社会福祉法人北海道リハビリーを見学することができました。

1つ目の見学先「千歳高等支援学校」は開校2年目の学校で JR 千歳駅から徒歩25分、最寄りのバス停から徒歩2分の場所にあります。近くには青葉公園という大きな公園や市立図書館、また現場実習などで交流のある北海道まるごと市場があり、学びやすそうな環境であると感じました。学科は、環境・流通サポート科（2間口：16名）、生活技術科（1間口：8名）の2学科で、1学年24名という少ない人数を生かした指導をしているそうです。具体的には、他学科の作業も全て体験することで、働くための基礎的・基本的な知識、技能、態度の習得を目指し、実践的な知識、技能を高めるために現場実習を1年生では2回、2年生では2～3回、3年生では1～2回実施する予定（最大7回）で、就労に結び付く力を重点的に育てているそうです。1、2年生の現場実習では真冬の2月に行くことで冬の交通傷害にも対応できるように工夫しているということでした。

また、寄宿舎のない通学型の学校であるので、より家庭・地域・企業・福祉との連携をとって共に生徒を育てていけるというお話もありました。生徒さんは現在1、2年生合わせて52名で、男女比は1：1だそうです。地元千歳から通っているお子さんが16名と多く、次いで札幌、中には長沼や室蘭から長い時間をかけて通学しているお子さんもいるということでした。授業は、2年生の現場実習の振り返りをしている様子を見せてもらいました。生徒さんは現場実習での反省や感想を熱心にプリントに記入していました。字が大変上手で驚きました。残念ながら実際の作業学習は見学できませんでしたが、完成した作業製品はどれもクオリティーが高く素晴らしいなと思いました。

開校2年目ということで、プールや給食設備がなく、市の給食を利用したり、畑を一から耕したりと、まだまだ設備が不十分なところがあり、先生方は苦勞されているようですが、新しくできた学校だからこそ、校訓「挑戦・創造・協働」にあるように、よりよい学校を力を合わせて創っていくんだ、という先生方の熱意、工夫、情熱が伝わってくるお話をたくさん聞くことができました。

昼食はANA クラウンプラザホテル千歳にて楽しく済ませ、午後は社会福祉法人北海道リハビリーの見学に向かいました。移動中のバスでは、中3のお母様方から修学旅行や現場実習でのお子さんの様子やお母様方の感想、またそれぞれの準備で大変だったこと等、大変貴重で参考になるお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

さて、次の見学先の北海道リハビリーは、北広島市西の里にあり、創立51年目の大変大規模な施設です。利用する方々のニーズや適性、能力、障がい程度に応じた日常生活の支援、援助、介護を行っているほか、障がいのある方々の地域生活における自立と社会参加を促進するため、クリーニング、印刷、縫製などの作業訓練を通じて、一般就労に向けた様々な就労支援を行っているそうです。今回私たちは数ある事業所の中から「リハビリー・エイト」「リハビリー・おおぞら」を見学させていただきました。リハビリー・エイトでは、印刷（オフセット印刷、オンデマンド印刷、スクリーン印刷、企画・デザイン・製本・編集、ホームページ作成等）が主な授産科目となっており、作業が細分化されているので利用される方の実態に応じた相応しい作業を行ってもらっているそうです。パソコンを使った作業が多いので、体力に自信のない方や車イスを利用している方も多くいらっしゃいました。その他に軽作業（菓子箱の組み立て、ひとくちゼリーの検品等）もありました。リハビリー・おおぞらでは、クリーニングが主な授産科目で1日に寝具類10t、白衣・タオル類9tもの洗濯物を処理しているそうです。暑い中での作業で大変そうだと感じましたが、皆さん真剣な表情で作業している姿がとても印象に残りました。どちらの利用者さんも気持ちのよい挨拶をしてくれて、前向きに頑張っている姿をたくさん見せてもらうことができました。職員の方もとても親切で、利用者さんのことを理解し、支援している様子が伝わってきてよかったです。

今回の施設見学では、普段なかなか見学できなかった所に行き、多くのことを学ぶことができました。さらに、子どもの将来に向けて考えるよい1日となりました。ありがとうございました。